

## 特許協力条約

PCT

特許性に関する国際予備報告（特許協力条約第二章）

（法第12条、法施行規則第56条）

〔PCT36条及びPCT規則70〕



出願人又は代理人 の書類記号 NTK04-162470	今後の手続きについては、様式PCT/IPEA/416を参照すること。	
国際出願番号 PCT/JP2004/008679	国際出願日 (日.月.年) 15.06.2004	優先日 (日.月.年) 17.06.2003
国際特許分類 (IPC) Int.Cl. <sup>7</sup> H01L21/68, H02N13/00		
出願人 (氏名又は名称) 株式会社クリエイティブ テクノロジー		

1. この報告書は、PCT35条に基づきこの国際予備審査機関で作成された国際予備審査報告である。  
法施行規則第57条（PCT36条）の規定に従い送付する。
2. この国際予備審査報告は、この表紙を含めて全部で 4 ページからなる。
3. この報告には次の附属物件も添付されている。
- a. ☒ 附属書類は全部で 5 ページである。
- ☒ 補正されて、この報告の基礎とされた及び／又はこの国際予備審査機関が認めた訂正を含む明細書、請求の範囲及び／又は図面の用紙（PCT規則70.16及び実施細則第607号参照）
- ☐ 第I欄4.及び補充欄に示したように、出願時における国際出願の開示の範囲を超えた補正を含むものとこの国際予備審査機関が認定した差替え用紙
- b. ☐ 電子媒体は全部で \_\_\_\_\_ (電子媒体の種類、数を示す)。  
配列表に関する補充欄に示すように、コンピュータ読み取り可能な形式による配列表又は配列表に関連するテーブルを含む。(実施細則第802号参照)
4. この国際予備審査報告は、次の内容を含む。

- ☒ 第I欄 国際予備審査報告の基礎
- ☐ 第II欄 優先権
- ☐ 第III欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての国際予備審査報告の不作成
- ☐ 第IV欄 発明の単一性の欠如
- ☒ 第V欄 PCT35条(2)に規定する新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解、それを裏付けるための文献及び説明
- ☐ 第VI欄 ある種の引用文献
- ☐ 第VII欄 国際出願の不備
- ☐ 第VIII欄 国際出願に対する意見

国際予備審査の請求書を受理した日 15.04.2005	国際予備審査報告を作成した日 06.09.2005		
名称及びあて先 日本国特許庁 (IPEA/JP) 郵便番号100-8915 東京都千代田区霞が関三丁目4番3号	特許庁審査官 (権限のある職員) 中島 昭浩	3U	9147
		電話番号 03-3581-1101 内線 3324	

## 特許性に関する国際予備報告

国際出願番号 PCT/JP2004/008679

## 第 I 欄 報告の基礎

1. この国際予備審査報告は、下記に示す場合を除くほか、国際出願の言語を基礎とした。

☐ この報告は、\_\_\_\_\_ 語による翻訳文を基礎とした。  
それは、次の目的で提出された翻訳文の言語である。

- ☐ PCT規則12.3及び23.1(b)にいう国際調査  
☐ PCT規則12.4にいう国際公開  
☐ PCT規則55.2又は55.3にいう国際予備審査

2. この報告は下記の出願書類を基礎とした。(法第6条(PCT14条)の規定に基づく命令に応答するために提出された差替え用紙は、この報告において「出願時」とし、この報告に添付していない。)

☐ 出願時の国際出願書類

☒ 明細書

第 \_\_\_\_\_ 1-3, 6-23 \_\_\_\_\_ ページ、出願時に提出されたもの  
 第 \_\_\_\_\_ 4, 5, 5/1 \_\_\_\_\_ ページ\*, 18.04.2005 付けで国際予備審査機関が受理したもの  
 第 \_\_\_\_\_ \_\_\_\_\_ ページ\*, \_\_\_\_\_ 付けで国際予備審査機関が受理したもの

☒ 請求の範囲

第 \_\_\_\_\_ 2-9 \_\_\_\_\_ 項、出願時に提出されたもの  
 第 \_\_\_\_\_ \_\_\_\_\_ 項\*, PCT19条の規定に基づき補正されたもの  
 第 \_\_\_\_\_ 1 \_\_\_\_\_ 項\*, 18.04.2005 付けで国際予備審査機関が受理したもの  
 第 \_\_\_\_\_ \_\_\_\_\_ 項\*, \_\_\_\_\_ 付けで国際予備審査機関が受理したもの

☒ 図面

第 \_\_\_\_\_ 1-3 \_\_\_\_\_ ページ/図、出願時に提出されたもの  
 第 \_\_\_\_\_ \_\_\_\_\_ ページ/図\*, \_\_\_\_\_ 付けで国際予備審査機関が受理したもの  
 第 \_\_\_\_\_ \_\_\_\_\_ ページ/図\*, \_\_\_\_\_ 付けで国際予備審査機関が受理したもの

☐ 配列表又は関連するテーブル

配列表に関する補充欄を参照すること。

3. ☐ 補正により、下記の書類が削除された。

☐ 明細書 第 \_\_\_\_\_ ページ  
☐ 請求の範囲 第 \_\_\_\_\_ 項  
☐ 図面 第 \_\_\_\_\_ ページ/図  
☐ 配列表(具体的に記載すること) \_\_\_\_\_  
☐ 配列表に関連するテーブル(具体的に記載すること) \_\_\_\_\_

4. ☐ この報告は、補充欄に示したように、この報告に添付されかつ以下に示した補正が出願時における開示の範囲を超えてされたものと認められるので、その補正がされなかったものとして作成した。(PCT規則70.2(c))

☐ 明細書 第 \_\_\_\_\_ ページ  
☐ 請求の範囲 第 \_\_\_\_\_ 項  
☐ 図面 第 \_\_\_\_\_ ページ/図  
☐ 配列表(具体的に記載すること) \_\_\_\_\_  
☐ 配列表に関連するテーブル(具体的に記載すること) \_\_\_\_\_

\* 4. に該当する場合、その用紙に“superseded”と記入されることがある。

## 特許性に関する国際予備報告

国際出願番号 PCT/JP2004/008679

第V欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての法第12条(PCT35条(2))に定める見解、  
それを裏付ける文献及び説明

## 1. 見解

新規性 (N)	請求の範囲	1-9	有
	請求の範囲		無
進歩性 (IS)	請求の範囲	2	有
	請求の範囲	1, 3-9	無
産業上の利用可能性 (IA)	請求の範囲	1-9	有
	請求の範囲		無

## 2. 文献及び説明 (PCT規則 70.7)

文献1: JP 10-270539 A (三菱電機株式会社) 1998. 10. 09

文献2: JP 7-201961 A (インターナショナル・ビジネス・マシーンズ・コーポレーション)  
1995. 08. 04

文献3: JP 2000-183143 A (太平洋セメント株式会社) 2000. 06. 30

文献4: JP 8-330405 A (アプライド マテリアルズ インコーポレイテッド)  
1996. 12. 13

請求の範囲1に係る発明は、新たに引用された文献1と国際調査報告で引用された文献2と新たに引用された文献3とにより進歩性を有しない。

文献1のA電極2とB電極3とを、文献2の環状電極100と中央ハブ250及び環状の縁220とのように配置することに格別の困難性は認められない。

また、文献1のA電極2及びB電極3と絶縁ベース8との具体的な固着手段として、文献3の電極層3と支持基板5とを固着する手段であるシリコン接着剤を用いることにも格別の困難性は認められない。

請求の範囲3、6に係る発明は、文献1と文献2と文献3とにより進歩性を有しない。

文献3には、電極層が支持基板5に接触しないように絶縁スペーサー6を設ける点が記載されている（特に、段落【0021】参照）。

請求の範囲4に係る発明は、文献1と文献2と文献3と国際調査報告で引用された文献4とにより進歩性を有しない。

文献1のA電極2、B電極3の固着位置を規定する手段として、文献4の静電チャック手段112を支持ブラーテン110上で位置決めする手段である位置決めピン120を用いることに格別の困難性は認められない。

請求の範囲5に係る発明は、文献1と文献2と文献3とにより進歩性を有しない。

凹凸等相補的な形状を嵌合することにより2つの部材の位置決めを行うことは従来周知慣用な事項であり、

特許性に関する国際予備報告

国際出願番号 PCT/JP2004/008679

## 補充欄

いずれかの欄の大きさが足りない場合

## 第 V 欄の続き

これを文献1のA電極2及びB電極3と絶縁ベース8とに適用したものにすぎない。

請求の範囲7に係る発明は、文献1と文献2と文献3とにより進歩性を有しない。

文献2には、電極100、200の表面に陽極酸化によるハード・コートを施す点、及び、電極の材料としてアルミニウム合金が望ましい点が記載されていることから、アルミニウム合金に換えて純アルミニウムを用いることは、当業者であれば適宜選択し得る事項であると認められる。

請求の範囲8に係る発明は、文献1と文献2と文献3とにより進歩性を有しない。

文献3には、接着剤4としてシリコン接着剤が例示されている（特に、段落【0020】参照）。

請求の範囲9に係る発明は、文献1と文献2と文献3とにより進歩性を有しない。

どの程度の粘度を有するシリコン接着剤を用いるかは、当業者が適宜選択し得る事項にすぎないから、ゲル状、エラストマー系の接着剤を用いることは、当業者であれば適宜選択し得る事項であると認められる。

請求の範囲2に係る発明は、国際調査報告で引用されたいずれの文献にも記載されておらず、当業者にとって自明なものでもない。